



2026年5月26日掲載

## 業績好調の日本株、内需拡大を待つ

日本企業の決算は、総じて好調と報じられています。

しかし、日経平均株価の強さに比べて、幅広く日本株をカバーする東証株価指数(TOPIX)は、今年2月の高値を更新できず、上昇は限定的です。日本株の上昇は一部の業種に偏っており、全面高には内需拡大のシグナルを待つ必要がありそうです。

報道によると、TOPIX構成企業の売上は、前年比3パーセント程度の増収、営業利益や経常利益も増益と、全体としては底堅い実績です。一方で、このところTOPIXは日経平均ほど上昇していません。

業種ごとに見ると、半導体や電機といったテクノロジー関連は、AI需要を背景に業績・株価ともに好調です。しかし、消費関連や一部製造業では、業績は良くても株価への広がりが限定的です。

主要な半導体関連銘柄で構成する米フィラデルフィア半導体株指数(SOX)が高値圏を維持し、半導体関連の利益成長期待が強まっています。SOX指数は、3月ごろにAIによる競争激化の懸念などから調整した後、4・5月にはAI需要の拡大を確認しながら再び上昇しました。この結果、日本の半導体製造装置株なども成長期待が強まり、関連銘柄の影響が大きい日経平均が、TOPIXを上回って上昇したと言えます。

一方で、一部の製造業や国内消費関連業種では、石油価格高騰やナフサなどモノ不足についての不透明感などから、過去業績が良くても強気になれていません。

賃金は上昇していますので、今後地政学やインフレの落ち着きが確かになれば、内需関連への興味も強まるとみえています。

(アモーヴァ・アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

※2025年9月1日、日興アセットマネジメント株式会社はアモーヴァ・アセットマネジメント株式会社に社名変更しました。

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したのですが、正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》